

令和7年度 第2回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年6月16日（月） 13時15分から15時まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 小山 正博、松本 依子、内山 丈夫、村上 美代子、今泉 るり子、
野田 昌宏、齋藤 泰司
- 4 欠席委員 青嶋 祐介
- 5 オブザーバー 石田 博基（西部協働センター所長）
- 6 学 校 澤田 直子（校長）、大渡 和正（教頭・CS担当）、池野 紀子（教務主任）
山田 公子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に確認を行い、小山会長より松本副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- ・学校の抱える課題と改善策について

11 会議記録

司会の大渡教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

議長の指示により、別紙資料に基づき、学校の抱える課題について校長より説明があった。学校全体における教職員の不足により、支援が必要な児童に対応することが数的に大変である現状、それに対する現状で取り組んでいる創意工夫点が説明された。追分小のよさとして、近隣には、複数の学校や歴史的文化的学習素材があり、学習環境に恵まれている点が挙げられる。また、運動会の片づけやくすのき奉仕活動など、保護者の協力体制もある。その点を生かし、地域で学んだことを地域に発信することで、さらに関わりが増えていくのではないかと期待している。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子供たちが主体的に学ぶよう導いていく。そして、子供たちの考えを組み合わせ、よりよい学びを生み出すために注力していく。

説明を受け、会議に先立って行われた授業参観も踏まえ、委員からは以下の発言があった。

① 地域との関わり

- ・城北会館や静岡大学など、身近な施設と協力すれば、今以上に取り組めることが増えるのではないかと考える。また、昨年同様、地元の夏祭りへ参加し交流することで、子供たちと地域が、互いに得るものも多いと考える。地域の様々なシチュエーションを子供とつなぐ場にしていきたい。（小山会長）
- ・親子で参加する校区内のイベントがあれば、形態に捉われずに参加しやすく、地域交流が図れるのではないかと考える。（村上委員）
- ・イベントへの参加や計画は、学校との結びつきに有用だけでなく、保護者同士の横のつな

がりができ、意見や考えも共有しやすい。(齋藤委員)

- ・校区に住んでいる方や卒業生で学校に関わってみたいという声もある。100周年の展示室に500人もの来校者があったことが、関心を示している一例である。地域で子供たちを育てようという考えに基づいて協力してもらい、追分小が地域密着で学びに取り組める環境であることが望ましい。(今泉委員)
- ・クラブ活動は、地域の方々の御協力もあり、地域のよさを取り込んで互いに笑顔で活動しているように見受けられる。持続的に幅広く取り組めば、活動がより充実していくのではないか。(松本議長)
- ・クラブには、紹介できる人材がたくさんいるので、ぜひ声を掛けてほしい。(石田オブザーバー)

② 教育活動

- ・運動会は、コンパクトかつ、伝統を持ちながらも精選されており、非常によかった。競技中は互いを応援し合い、気持ちのいいものであった。授業においては、子供たちが考え、自由な意見を出し、それを先生がまとめており、探求心がわく指導をしていた。他方、学習環境を整える姿勢にばらつきが見られる。先生が促し、子供たちが互いに声を掛け合い意識することで、メリハリをつけて授業に取り組まれるのではないか。(野田委員)
- ・授業では、先生中心ではなく子供に投げかけるなど、教え方の工夫が随所に見られた。授業目標を、多様な子供に対応して工夫することで、全員がステップアップできる。(内山委員)
- ・指導には、飽きさせず、集中するための工夫が見られ、比較的前向きに授業に取り組んでいた。(今泉委員)
- ・どの授業も趣向を凝らしており、楽しく展開されていた。子供たちは落ち着いて一生懸命取り組んでいた。(松本議長)

<その他報告事項等>

学校支援コーディネーターの今泉委員より、運動会を中心とした1学期のボランティア参加状況や、2学期の活動予定が報告された。

司会から、次回会議は、2025年10月27日(月)午後1時15分から追分小学校会議室で開催する旨の報告があった。